

1) 「研究開発コロキウム」の報告書刊行にあたって

教育学研究科では平成 17-18 年度「魅力ある大学院教育」イニシアティブのプログラム「理論・実践融合型による教育学の研究者養成」で、教育プログラムの主軸として「研究開発コロキウム」を立ち上げました。コロキウムはとりわけ博士課程院生の「高度な研究能力」と「リーダーシップ」の育成を目指したもので、次のような特徴を持っていました。

1. 専攻・専門を超えた領域横断的な共同グループを院生自らが立ち上げ研究を推進する。
2. それを科学研究費に準ずる形式で研究科をあげて支援する。
3. 大学院の授業として組み込み、院生が主体になって運営する。

このような取組は前例がなく、新たな大学院教育モデルとして画期的なものといえます。この「研究開発コロキウム」では、計 21 グループが活動し、通常の授業活動に加えて、研究会の開催、国内外でのフィールド調査や学会発表、公開シンポジウムやワークショップの開催など、きわめて多彩な活動を院生主導で展開しました。その成果は学会発表、研究機関や自治体など現場への還元のほか、水準の高い「研究成果報告書」(21 冊)に結晶化されています。

19 年度の場合、「研究開発コロキウム」は、グローバル COE プログラム「心が活きる教育のための国際的拠点」(教育学研究科拠点、平成 19-23 年度)、文科省の特別教育研究経費(教育改革)「子どもの生命性と有能性を育てる教育・研究推進事業」(平成 19-23 年度)、大学院教育改革支援プログラム(大学院 GP)「臨床の知を創出する質的に高度な人材養成」(平成 19-21 年度)の合同プログラムとして展開されました。

実は 19 年度にどれくらいの数のコロキウムが立ち上がるか期待と不安がありました。イニシアティブでのコロキウムにたいする院生諸君の評価が、応募数という形で端的に表明されると思ったからです。幸いなことに、今回は文学研究科や人間環境学研究科からのグループも含めて、23 のグループを立ち上げることができました。教育プログラムとして「研究開発コロキウム」が定着しそうで、うれしいことです。

今回、23 グループの研究成果が報告書としてまとめられました。各院生諸君は自分の本来の研究課題とは少しずれたところでチームプレーとして各グループが設定したコロキウムの課題に取り組んだと思います。それが視野を広げるとともに、各自の研究をいっそう豊かにすることになったと信じています。

教育学研究科長 川崎良孝